

新春放談

— 真の医療を求めて —



日野病院名誉病院長 玉井 嗣彦

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、晴れ晴れと希望に満ちた新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

私は鳥取大学を定年退官後、日野路の日野病院に名誉病院長として赴任してから、早くも14度目の新春を迎えました。

オシドリの飛来する季節となり、数千羽の大群が病院の側を流れる日野川に、餌のドングリを求めて、ひしめく姿は状観です。

平成25年度も日野病院は、自治体では珍しく、平成19年度より7年連続で黒字決算となり、全国の自治体病院関係者の注目を浴びる結果となりました。地域住民のニーズにあった良質な医療、保健、福祉のサービスに、櫃田 豊病院長はじめ病院関係者が一丸となって取り組んだ結果と考えられますが、眼科診療も母校井上幸次教授はじめ多くの医局の先生方の絶大なご支援を得て、その一端を担わせていただいていますので、眼科担当の専門医として一入の感激を覚えている幸いです。

病院の話題をもう一つ取り上げますと、すでに“せせらぎ、No.51”で報告済みですが、平成26年6月9日に、鳥取大学地域医療総合教育研修センターが日野病院に開設されました。これは、鳥取大学医学部地域医療学講座が、地域に必要な医療活動や医学生への地域医療教育を行うほか、高齢化に伴う地域保健課題の解決に向けての研究、さらに行政と連携して保健・医療・福祉を総合的に推進する地域包括ケアの構築に取り組むことを目的として、本院に開設したものです。

大学病院での先端的・専門的な医療と、生活環境に接近したプライマリ・ケア、その両輪が回ってこそ“真の医療”であることを、派遣された医学生たちが、短い期間ではありますが、本院での月曜日から木曜日までの総合診療内科を窓口とする日常診療や、付属の診療所や訪問看護などの現場を通じて体験してくれれば、病院関係者の一人として望外の喜びです。

地域医療学講座の谷口晋一教授はじめスタッフの先生方の澁漑とした自信に満ちたお姿を病院で拝見するにつけ、我々も元気づけられているところです。

内外からの見学者もみられ、今後の益々の発展を期待したいものです。今年もどうかよろしく願い申し上げます。



(カッターは玉井嗣彦名誉病院長)